

2026年6月15日
泉佐野市

「Dialogue Theater – いのちのあかし –」イチョウ・植栽の移植が完了 ～万博レガシー継承に向けた取り組みが本格始動～

泉佐野市(市長:千代松 大耕)は、大阪・関西万博のレガシーを継承する取り組みとして進めるシグネチャーパビリオン「Dialogue Theater – いのちのあかし –」(以下「いのちのあかし」という。)の移設事業において、2026年6月14日(日)、シンボルツリーであるイチョウ及び植栽を泉佐野丘陵緑地へ移植しました。



記念式典:(左から)高橋 圭子 副議長、大庭 聖一 議長、千代松 大耕 市長
映画作家・河瀬 直美 様、2025年日本国際博覧会協会事務総長 石毛 博行 様、関西経済連合会会長 松本 正義 様

「Dialogue Theater – いのちのあかし –」は、映画作家・河瀬 直美氏がプロデュースした大阪・関西万博のシグネチャーパビリオンです。「対話」を通じて人と人、人と自然、そして未来とのつながりを見つめ直す場として、多くの来場者を迎えてきました。

このたび移植したイチョウ及び植栽は、同パビリオンのシンボルツリーであるイチョウとパビリオン空間を彩る植栽であり、万博閉幕後もその理念とともに泉佐野市へ受け継がれるものです。

今回の移植は、令和10年度の開館をめざして進める移設事業の第一歩となる取り組みであり、万博レガシーを未来へ継承する新たなスタートとなります。

また、移植完了を記念し、2026年6月14日(日)に泉佐野丘陵緑地において記念式典及びトークショーを開催しました。当日は、移植を終えたイチョウの前で記念式典を実施するとともに、河瀬氏と元サッカー日本代表選手の中田英寿氏によるトークショーが行われ、「Dialogue Theater – いのちのあかし –」に込められた想いや万博レガシーの継承について語られました。

泉佐野市では、今後もいのちのあかしの建物の移設に向けた取り組みを着実に進めるとともに、「対話」と「いのち」の理念を未来へつないでまいります。

本件に関する報道機関の問い合わせ先

泉佐野市 成長戦略室 おもてなし課

Tel:072-447-8126/ E-mail: omotenashi@city.izumisano.lg.jp